

すすかけ9月号

令和6年9月2日
所沢市立若狭小学校

未来を生きる力を育む ふるさと若狭

夏休みを終えて、2学期スタート

夏休みが終わり、子供たちが学校に戻ってきました。猛暑が続きましたが、7月22～23日には5年生が林間学校へ行き、大きな成果をあげることができました。やるべきことに向かって自分たちで気がついて行動ができたこと、一度教えられたことを忘れることなく次に生かしたことなど、自ら考え動く力が育っています。2学期以降、さらに高学年として活躍してくれることを期待しています。



オリンピックイヤーの夏、応援に力が入りました。8月29日にはパラリンピックが開幕。心に残っているのは、陸上・視聴覚障害クラスに出場するフランスのナンテナン・ケイタ選手の言葉です。「『障害があることは必ずしも自分の中に何か欠けているということではない』というメッセージを伝えたい」。オリンピックに出場するようなトップ選手であっても障害による差別を感じているのでしょうか。

全国高校野球地方大会では都立青鳥特別支援学校が単独での出場を果たしました。選手たちの言葉を聞き、野球が楽しい、仲間が好きという思いは、どの球児と何ら変わらないと思いました。

障害や持病の有無、性差、国籍や立場、生まれ育った環境、経済的環境の違い、計算の速さ、足の速さ、周囲の人と活発に交流したい性格か、じっくりと一人で考えて行動したい性格か……。様々な違いをもって生きている私たち。みんな違っているのに、違いだけをもって、関わり方を変えたり攻撃をしたりするために、いじめも戦争も絶えません。

安心して自分らしく生きる当たり前を子供たちに伝えたい。互いの違いを思いやりながら対話をとおして共に生きる社会を子供たちに手渡したいと、世界の戦火を前に、強く願います。

多くの違いをもった人が集まる学校では、授業や行事での話し合いを大切に、自分の考えを伝え合える子供を育てることを意識しています。さらに校長室では2学期から「暗唱チャレンジ」に取り組みます。考えをもつにも、伝えるにも、「言葉」が必要です。言葉を豊かにする一つの手がかりになればと願い、子供たちの来室を待っています。